

- 問1 1867年、東海や近畿地方を中心に、編み笠を被った大勢の民衆が「お札が降ってきた」という噂をきっかけに、通りで入り乱れて熱狂的に踊り歩いた騒動を何と呼びますか。 (2026年 千葉県公立入試 類似)
1. 御蔭参り 2. ええじゃないか 3. 米騒動 4. 秩父事件
- 問2 19世紀半ば、アメリカのペリーが率いる艦隊（黒船）が日本に来航し、開国を求めました。当時のアメリカの軍艦は蒸気機関を動力としていたため、航行を続けるために薪や水、食料のほかに、ある特定の燃料を日本で補給する必要がありました。日米和親条約によって供給が認められることとなった、この燃料の名称として正しいものはどれですか。 (2016年 広島県公立入試 類似)
1. 石炭 2. 木炭 3. 天然ガス 4. 石油
- 問3 日米修好通商条約に代表される不平等条約の内容について、領事裁判権を認めたことで日本が被った実質的な不利益として最も適切な説明はどれですか。 (2020年 新潟県公立入試 類似)
1. 外国人が指定された居留地を越えて、日本国内のどこでも自由に旅行したり商売したりすることを認めざるを得なかった。 2. 外国から輸入される商品に対して日本側が自由に税率を決めることができず、安い外国製品が流入した。 3. 特定の国に与えた最も有利な条件を、他の締約国に対しても自動的に適用しなければならなくなった。 4. 日本国内で事件を起こした外国人に対し、日本の警察や裁判所が日本の法律を適用して処罰できなかった。
- 問4 1857年に発生したインド大反乱を鎮圧し、同時期の日本において、幕府と安政の五カ国条約を締結した欧米列強の一つとして正しい国名を選びなさい。 (2026年 山形県公立入試 類似)
1. イギリス 2. アメリカ 3. フランス 4. ロシア
- 問5 1858年の条約締結後に本格的な貿易が始まると、日本の社会経済には大きな変化が生じました。当時の貿易の状況を説明した文として正しいものを選んでください。 (2026年 京都府公立入試 類似)
1. 函館が最大の貿易港となり、綿織物が最大の輸出商品であった 2. 横浜が最大の貿易港となり、生糸が最大の輸出商品であった 3. 神戸が最大の貿易港となり、鉄鋼が最大の輸入商品であった 4. 長崎が最大の貿易港となり、茶が最大の輸入商品であった
- 問6 江戸幕府が1639年にポルトガル船の来航を禁止し、1641年にオランダ商館を長崎の出島に移転させた背景および目的として、最も適切な説明はどれか。 (2023年 福岡県公立入試 類似)
1. 明との間で行われていた勘合貿易をより効率的に行うため、民間の朱印船による自由な海外渡航をすべて禁止して、長崎に拠点を集約するため。 2. 当時、日本最大の貿易相手国であったポルトガルの影響力を弱め、代わりにロシアとの国交を樹立して北方の安全を確保するため。 3. キリスト教の布教を徹底的に排除するとともに、幕府が海外の情報を管理し、貿易による利益を独占して支配体制を固めるため。 4. イギリスやアメリカからの開国要求を退けるために、ヨーロッパ諸国との貿易をすべて停止して、完全な自給自足体制を築くため。
- 問7 1858年に江戸幕府がアメリカと結んだ条約について、横浜・長崎などの5つの港を開いて商人同士の自由な貿易を行うことを認めた取り決めを何といいますか。 (2020年 福島県公立入試 類似)
1. 日米修好通商条約 2. 下田条約 3. 日米安全保障条約 4. 日米和親条約
- 問8 19世紀半ば、江戸幕府はそれまでの「異国船打払令」を緩める方針転換を行いました。この背景には、隣国である清がイギリスとの戦争に敗れたというニュースが日本に伝わり、幕府が西洋列強の軍勢力に対して強い危機感を抱いたことがあります。このきっかけとなった戦争の名称として正しいものはどれですか。 (2020年 茨城県公立入試 類似)
1. 辛亥革命 2. アヘン戦争 3. 日清戦争 4. フランス革命
- 問9 安政の五カ国条約の締結によって日本が本格的に開国した後、1860年代の貿易統計において、日本の輸出入額の過半数を占めるようになった国はどこですか。なお、この国は1860年に約55%であったシェアを、1865年には約86%にまで拡大させています。 (2018年 岐阜県公立入試 類似)
1. フランス 2. オランダ 3. イギリス 4. アメリカ
- 問10 19世紀半ば、開国に伴い日本と欧米諸国との貿易が開始されました。当時の輸出入の状況において、日本から生糸や茶が大量に輸出される一方で、輸入額の多くを占め、日本の農村における内職であった綿産業を衰退させる要因となった品目の組み合わせとして適切なものはどれですか。 (2024年 香川県公立入試 類似)
1. 石油・石炭 2. 鉄砲・火薬 3. 小麦・大豆 4. 綿糸・綿織物
- 問11 1858年の条約締結によって本格的に始まった貿易では、輸出額が最も多かったのは生糸でしたが、輸入額が多かった品物の中には、日本の伝統的な手工業に大きな影響を与えたものがあります。国内の生産者に深刻な打撃を与えた輸入制限のない品目として適切なものはどれですか。 (2016年 福岡県公立入試 類似)
1. 石炭 2. 茶 3. 綿織物 4. 生糸
- 問12 19世紀前半、江戸幕府は日本に近づく外国船に対して、当初は砲撃して追い払う強硬な姿勢をとっていましたが、1842年にはその方針を大きく転換しました。この政策転換の背景となった国際的な状況と、転換後の対応について述べたものとして正しいものはどれですか。 (2019年 群馬県公立入試 類似)
1. 産業革命を成功させたロシアが南下政策を強めたため、幕府はロシアと軍事同盟を結び、イギリスやアメリカの船を攻撃させた。 2. アメリカのペリーが浦賀に来航して開国を強く迫ったため、幕府は即座にこれを受け入れ、すべての外国船を自由に寄港させた。 3. 清がアヘン戦争でイギリスを撃退したことを知り、幕府も自信を深め、外国船をより徹底的に打ち払う方針を強化した。 4. 清がアヘン戦争でイギリスに敗れたことを知り、武力衝突を避けるため、外国船に薪や水を与えて穏やかに退去させる方針をとった。
- 問13 1825年から1856年までの外交上の出来事をまとめた年表において、1842年に幕府が「薪水給与令」を出して外交方針を和らげた背景として、最も適切な事実はどれですか。 (2020年 高知県公立入試 類似)
1. 生麦事件が発生し、イギリスとの間で軍事的な緊張が高まったこと 2. 日清戦争で日本が清に勝利し、下関条約が結ばれたこと 3. イギリスがアヘン戦争で清を破ったニュースが日本に伝わったこと 4. アメリカのペリーが浦賀に来航し、開国を強く求めたこと

答え合わせ・解説

問1	答え 2 ええじゃないか	幕末の動乱期である1867年に発生した「ええじゃないか」は、編み笠などの仮装をした民衆が熱狂的に踊り歩くという特異な社会現象でした。これは単なる騒ぎではなく、古い秩序が崩壊する中で民衆が抱いた「世直し」への期待が爆発した姿であると解釈されています。
問2	答え 1 石炭	産業革命を経た当時の欧米諸国では、蒸気機関を搭載した蒸気船が普及していました。蒸気船を動かすには燃料となる石炭が大量に必要でしたが、アメリカから中国（清）へ向かう太平洋航路を維持するためには、途中で石炭を補給できる拠点が必要でした。そのため、アメリカは日本に対して、燃料の補給を目的とした港の開放を強く迫ったのです。
問3	答え 4 日本国内で事件を起こした外国人に対し、日本の警察や裁判所が日本の法律を適用して処罰できなかった。	領事裁判権が認められたことにより、外国人が日本人に対して暴行などの罪を犯しても、その国の領事によって裁判が行われ、軽い刑罰で済まされるといった不公平な事例が多発しました。このように自国の司法権が及ばないことは、主権国家として対等ではない不平等な状態を意味します。なお、輸入関税を決められない不利益は「関税自主権の欠如」にあたります。
問4	答え 1 イギリス	1857年のインド大反乱を武力で鎮圧したイギリスは、その後インドを直接統治下に置くなど、アジアへの進出を加速させました。日本に対しては、1858年にアメリカ、オランダ、ロシア、フランスとともに安政の五カ国条約（日英修好通商条約など）を締結し、不平等な条件での貿易を開始させました。
問5	答え 2 横浜が最大の貿易港となり、生糸が最大の輸出商品であった	日米修好通商条約によって開港された港のうち、江戸に近い横浜が貿易の最大の中心地となりました。輸出の主力は生糸や茶であり、特に生糸は欧米での需要が高く、日本の輸出額の大部分を占めました。一方、輸入では毛織物や綿織物などが多く入ってきました。
問6	答え 3 キリスト教の布教を徹底的に排除するとともに、幕府が海外の情報を管理し、貿易による利益を独占して支配体制を固めるため。	江戸幕府は、キリスト教の浸透が幕藩体制の脅威になると考え、布教と密接に結びついていたポルトガルを排除しました。一方、貿易のみを目的としていたオランダについては、管理のしやすい長崎の人工島である出島に商館を移すことで、貿易の利益と海外情報の独占を図りました。これが「鎖国」と呼ばれる状態の完成です。朱印船貿易はこれに先立つ時期に行われていたものであり、開国要求が強まるのはさらに後の19世紀のことです。
問7	答え 1 日米修好通商条約	1854年に結ばれた日米和親条約では、薪水や食料の補給を目的として下田・箱館の2港が開かれましたが、貿易は認められていませんでした。1858年のこの条約によって、横浜（神奈川）、長崎、新潟、兵庫、箱館の5港を順次開港し、本格的な自由貿易が開始されることとなりました。
問8	答え 2 アヘン戦争	1840年に勃発したアヘン戦争において、当時東アジアの大国であった清がイギリスに敗北した事実は、江戸幕府に深刻な衝撃を与えました。強力な軍事力を持つ西洋列強と直接衝突することを避けるため、幕府は1842年に異国船を無条件に攻撃する方針を改め、人道的な観点から燃料や水を与える政策へと転換しました。
問9	答え 3 イギリス	日米修好通商条約をきっかけに日本は開国しましたが、実際に貿易の主導権を握ったのは、当時「世界の工場」と呼ばれた圧倒的な工業力を誇るイギリスでした。イギリスは横浜を主な拠点として、毛織物や綿織物を日本に輸出し、日本からは生糸などを輸入することで、1860年代半ばには日本の貿易額の8割以上を占める最大の貿易相手国となりました。
問10	答え 4 綿糸・綿織物	開国直後の貿易において、日本は生糸や茶を主な輸出品とする一方で、衣料品の原料となる綿糸や、完成品である綿織物を大量に輸入していました。これらの輸入品は、日本の農村で広く行われていた手紡ぎの綿糸作りや手織りの綿織物業よりも圧倒的に安価であったため、国内の綿産業は存続の危機に立たされました。これがのちに、日本独自の機械による紡績業の発展へとつながる契機にもなりました。
問11	答え 3 綿織物	開国後の日本には、産業革命を経験したイギリスなどから工場で大量生産された安価な綿織物や綿糸が大量に流入しました。当時の日本は関税自主権がなかったため、これらを防ぐことができず、それまで日本の農村で伝統的に行われてきた手工業的な綿織物業は、価格競争に敗れて大きな打撃を受けることとなりました。
問12	答え 4 清がアヘン戦争でイギリスに敗れたことを知り、武力衝突を避けるため、外国船に薪や水を与えて穏やかに退去させる方針をとった。	幕府は1825年に異国船打払令（無二念打払令）を出し、日本沿岸に近づく外国船を問答無用で攻撃していましたが、当時の先進的な軍事力を持つイギリスの蒸気船に対し、大国であった清がアヘン戦争で敗北したという知らせが届くと、幕府は大きな衝撃を受けました。強力な軍隊を持つ外国との無謀な衝突を避けるため、1842年に薪水給与令を出し、燃料である薪や水を与えて穏やかに退去させるという、以前よりも柔軟な外交方針へと変更しました。
問13	答え 3 イギリスがアヘン戦争で清を破ったニュースが日本に伝わったこと	1840年に始まったアヘン戦争で、当時アジアの大国であった清がイギリスに敗北したことは、江戸幕府に大きな衝撃を与えました。このまま異国船打払令による強硬策を続けると、日本もイギリスなどの列強から攻撃を受ける恐れがあると判断した幕府は、方針を転換して薪水給与令を発令しました。